

IAUD Newsletter Vol.4 第14号 (2011年12月号) 目次

1. 特集：「平成23年度BF・UD推進功労者表彰」受賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 活動報告：衣のUDPJ講演会開催とUDジャケット展示・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 国内外のUD動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
4. IAUD 2012年1月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

幅広い層へのUD普及活動に貢献

～特集：平成23年度BF・UD推進功労者表彰奨励賞受賞



バリアフリーとユニヴァーサルデザインの推進について極めて顕著な功績または功労のあった個人や団体を表彰する「平成23年度BF・UD推進功労者表彰式(第10回)」が12月9日(金)に内閣総理大臣官邸大ホールで行われ、IAUDは経済産業省より推薦を受け、「内閣府特命担当大臣表彰 奨励賞」を受賞しました。表彰式には小島文代理事長と西村澄夫副理事長が出席し、表彰状(下写真)と盾が授与されました。

今号のNewsletterは、西村副理事長/情報交流センター所長に表彰式の様子を報告してもらいます。

BF・UD推進功労者表彰は、平成13年11月6日に開催された「バリアフリーに関する関係閣僚会議(第2回)」において創設され、BF・UDの推進について顕著な功績のあった者を顕彰し、優れた取組を広く普及させることを目的としています。

今回で10回目を迎えますが、同要項によれば平成14年から10年間に限り実施するとありますので、これが最後の表彰になるかもしれません。IAUDは「ユニバーサルデザインの更なる普及と実現を通して、社会の健全な発展とくらし創りを目指す国内最大規模の団体であり、研究や活動の

成果を披露する場として、『国際ユニヴァーサルデザイン会議』を開催するなど幅広い層への普及活動に貢献した」と評価され、同賞受賞となりました。

表彰式には、IAUDから小島理事長(受賞者)と西村(随行者)が出席させていただきました。



10時30分に中央合同庁舎4号館（1階共用120会議室）に集合し、胸章（リボン）と説明資料を渡されて、内閣府職員より表彰式・祝賀会の概要等説明を受けました。資料の中身を覗いて・・・初めて受賞結果を知りました。また、授与者である野田佳彦総理大臣と蓮舫特命担当大臣は公務の都合で欠席され、園田康博内閣府政務官が代行されるとのことでした。官邸へは用意された大型バスで移動しました。

官邸正面玄関口（3階）到着後、大ホール（2階）に入る前に手荷物等を預けて所定の位置に着席しました。

式進行の説明とリハーサルを済ますと、やがて関係者が登場し、11時40分より表彰式が開催されました。

出席者は、内閣府5名（園田内閣府政務官、福下内閣府審議官、松元内閣府官房長、村木政策統括官、伊奈川審議官）、選考委員7名（野村委員長、篠委員、関根委員、高橋委員、田中委員、村田委員、野澤委員）、受賞者7名、随行者7名、内閣府職員他10数名です。



2列目中央が小島理事長

最初に、奨励賞1件（IAUD）、優良賞5件（①オムロン ソーシャルソリューションズ ㈱、②㈱富士レークホテル、③㈱湯郷プラザホテル 季譜の里、④㈱らむれす・三角山放送局、⑤NPO 法人 まちづくり推進機構岡山）、総理大臣賞1件（ケージーエス㈱）の順で、園田内閣府政務官より全7件の表彰状が授与されました。続いて、同ホールにて内閣府、選考委員、受賞者のみで記念撮影が行われました。

その後、隣の小ホールへ移動し、12時10分より園田内閣府政務官の挨拶と乾杯で立食式の祝賀会が開催されました。ここまでは写真撮影禁止で、これより撮影が可能となりました。

しばらくして、授与式と逆の順で各受賞団体からの挨拶が始まりました。

小島理事長はそれまでの6団体とは異なった視点で、特に「デザイナーの力・国際化・啓発等」を強調した挨拶をしました。（右写真）

また、歓談中は持参した「第3回国際UD会議2010in はままつ」や「48時間デザインマラソン」の資料を広げながら、活動内容を分かり易く説明しました。

13時に閉会。再びバスで中央合同庁舎に戻り、表彰状と記念品（盾）を持ち帰りました。



IAUD は序列としては 7 番目で、初めて受賞結果を知ったときは多少動揺もしましたが、これまでの反省や、10 月 21 日に IAUD サロンにて実施された現地調査での質問等を思い浮かべると、納得がいきます。むしろ、大変名誉なことであり有り難く頂戴いたしました。これもひとえに皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

この受賞を励みとし、生活者・社会に対しての訴求や相互の協力・展開をより強化し、着実に成果を出していこうと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(了)



(左から) 西村副理事長、村木政策統括官、小島理事長、伊奈川審議官

※BF・UD 推進功労者表彰式の詳細内容は内閣府の HP を参照してください↓

<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h23hyoushou>

～衣の UDPJ 活動報告①：

「東日本大震災から考える災害と UD」講演会開催



東日本大震災以降、「災害時における UD」を課題の一つにしてきた衣の UDPJ は、被災者の実情、特に障害者や高齢者などの社会的弱者がどのような避難生活を送っているかを知る必要があると考え、12 月 6 日（火）に都立産業技術研究センター（東京・両国）で「東日本大震災から考える UD」をテーマにした講演会を開催しました。今回の大震災後に強いリーダーシップで支援活動をしている（財）ダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎氏を講演者に招き、他の研究部会メンバー

や会員ら 21 名も参加し、活発な質疑応答が行われました。

講演会の概要を、衣の UDPJ の伊豆野隆信主査に報告してもらいます。

田村氏の被災者支援活動

田村氏は 1995 年の阪神大震災で被災した外国人に情報提供するボランティア団体「外国人地震情報センター」の設立に参加して被災者支援の活動を始め、外国人支援活動をしている「多文化共生センター」を経て、2007 年 4 月には人の多様性に配慮した組織や地域社会づくりを支援するダイバーシティ研究所を設立しました。

東日本大震災直後には「被災者と NPO をつないで支える合同プロジェクト」を発足。

現地で支援活動を行いながら被災者のニーズを聞き込み、それを NPO 団体につなげ問題解決に役立てるとい活動を行っています。

さらに、内閣官房「震災ボランティア連携室」企画官として被災地のニーズ把握や震災ボランティア促進のための施策立案にも携わっており、2011 年 9 月より東日本大震災復興対策本部ボランティア班企画官を務めています。

被災者の居場所とニーズ

被災者は災害発生直後からいろいろな場所に避難をしますが、同時にそのニーズも違ってきます。

避難所から仮設住宅に移動した人々にはコミュニティの再構築を、遠隔地に避難した人には被災地の情報を、また自宅避難の人々には見えにくいニーズを拾う必要が出てきます。

また、仮設住宅の期限は 2 年となっていますが、阪神大震災時には仮設住宅を 2 年で出られた人は全体の 20,3%で、すべての人が出られたのは 5 年後のことでした。

さらに、障害者にとって避難所は行きづらい場所となっています。たとえば、視覚障害者は周囲が分かりづらく危険で、精神障害者にはパニックに陥りやすい場所であり、避難所というものはまさにユニバーサル性のない場所となっています。

避難生活と社会的少数者の課題

大規模災害では「指定避難場所」だけで避難者を収容することはできません。

阪神大震災や 2004 年の新潟中越地震では、指定外の避難所は全体の約 4 割に達しました。さらに、指定避難所には地元の事情に詳しい元気な人々から先に入りすぐに満員になるため、結果的に高齢者や障害者、外国人などは自然発生的にできた指定外避難所に行かざるをえません。

しかも、避難所は長期にわたり過ごすには、社会的少数者にとって非常に厳しい所となっています。床の上での生活やアレルギーなどに対応していない食事、バリアフリーでない施設。聴覚障害者や外国人にとって音声案内はまったく意味がありません。

また、仮設トイレは和式で清掃もされないため、その結果、トイレに行きたくない→水を控える→高齢者の肺炎やエコノミー症候群を誘発することになります。

ちなみに阪神大震災時、避難所で亡くなった方の数は 500 名に達しています。



仮設住宅の問題点

震災においては、以下のように 3 つの段階があります。

- ①緊急支援期：主に避難所生活。炊き出し、片づけなどの需要
- ②生活再建期：主に仮設住宅。入居者支援、生甲斐や仕事創り
- ③復興支援期：「まち」「村」の復興。コミュニティ活動支援

このうち、②の仮設住宅での期間が最も忘れられがちで研究も乏しいものとなっています。

仮設住宅は今回の震災で約 5 万 2000 戸建てられました。そのうち、60%が工事現場用プレハブの様式、30%はハウスメーカーが建てたもの、10%は木造住宅メーカーが建てたものとなっており、特にプレハブでの苦情は多く寄せられています。

概ね仮設住宅には多くの段差があり、高齢者や障害者にとっては住みにくいのです。これは単に建設者側の問題ではなく、仕様書を含めた制度そのものの問題であることが浮き彫りにされました。

阪神大震災でも約 4 万 9000 戸の仮設住宅が建てられましたが、その時からなんら進歩がなされていないのが現状です。

配慮されていると感じられる支援

仮設住宅においてあるべき支援とは、入居者が安心して生活再建に臨めるような「配慮されている」と感じられるハードとソフトが必要です。

そのためには仮設住宅の基準をつくること以外に、健康や生きがい、仕事の支援が重要です。

さらに、コミュニティ形成のため仮設住宅に談話室や集会所、サポートセンターを設置して活用することが必要です。場合によっては、風呂や台所も共用の方が孤立を防ぐ上で良い場合もあるそうです。

仮設住宅で形成されたコミュニティが、地域の復興まちづくりへの流れとなることが理想です。

災害時対応の UD を考える

講演のまとめとして、以下のように災害時対応の UD を提案します。

○災害救援・生活再建での UD を！

- ・避難生活で状況悪化者を出さない
- ・「福祉避難所」も重要だが、すべての避難所で少数者を後回しにしない避難所デザインが必要
- ・仮設住宅の仕様をユニバーサルにすべき
- ・震災救援活動、ボランティア活動におけるユニバーサル対応も重要

○復興まちづくりでの UD を！

- ・復興は「被災した人々が自らの力で生活を取り戻すプロセス」
- ・復興計画の策定プロセスに多様な人の参画をデザインすべき

○自然災害が多発する日本から災害時対応の国際基準を！

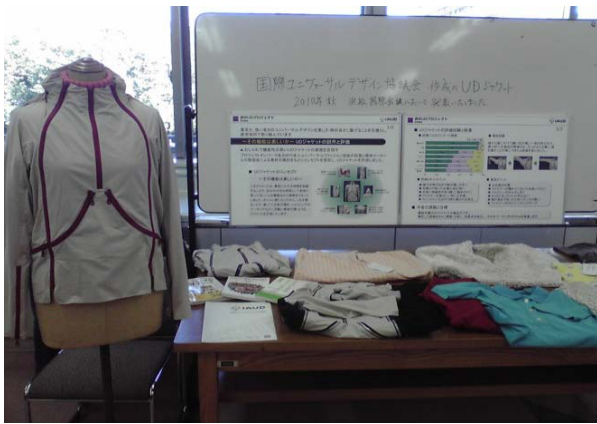
- ・緊急対応から避難生活、生活再建、復興までの各プロセスに UD の視点を取り入れたい
- ・自然災害が多発するアジアなど、各地で参照できる国際基準として、災害時対応の UD における国際基準を日本で構築して欲しい

最後に

田村氏は講演会の前日に気仙沼から仙台へ回り、そして東京での講演の後はそのまま被災地へ戻られる、という多忙な日々を送っていらっしゃいます。

我々もこの講演会において学んだことを生かさなくてはならないと感じております。講演会にお越しくくださった方々にお礼を申し上げるとともに、またご協力をお願いする日があると思いますが、その時はどうぞよろしく願いいたします。(了)

～衣の UDPJ 活動報告②： 福祉イベントで UD ジャケットを展示



10月29日(土)に「横浜市総合保健医療センター文化祭」が同センター(神奈川県港北区)で開催され、衣のUDPJがUDジャケット(左写真)を展示しました。

展示会場には、同PJメンバー2名が来場者にジャケットサンプルの解説とIAUDの活動紹介を行いました。

展示会の様子を伊豆野主査に報告してもらいます。

同センターは、主に要介護高齢者及び精神障害者を支援しており、介護施設や医療機関を備えています。

文化祭では、健康度チェックや講演会、バザー等の福祉関連のイベントが行われました。その一環として、衣のUDPJはユニヴァーサルファッションをテーマに、2010年に製作した機能性の高いUDジャケットや、ユニヴァーサルファッションのサンプル数点を展示しました。

見学者には高齢者や障害者が多く、概ねジャケットの趣旨に理解と共感をもってくださいました。特に素材、デザイン、ファスナーが好評でした。

また、健常者でバイクを使用している男性からは、その機能性と素材からライダースジャケットとしての活用を提案され、販売を切望されました。

障害者、健常者それぞれに評価された事はUDの最たることであり、UDジャケットの本来の目的と合致しています。

今回の展示は、UDジャケット製作時に福祉施設入居者へのアンケートに協力してくださった神奈川県作業療法士会の菊池美帆氏から依頼を受けました。

また、同会から11月末に発行された会報誌「神奈川県作業療法士会ニュース」第152号にも、UDジャケットの特集記事が掲載されました。(了)

国内外の UD 動向

Interdependence 2012 展示企業募集中

脊髄損傷の治療と UD をテーマに 2012 年 5 月 15 日（火）～18 日（土）にカナダのバンクーバーで開催される Interdependence 2012 Conference and Exposition が、医療器具や公共交通、スポーツなどの分野で、展示企業を募集しています。

詳細は公式サイトをご参照ください↓

<http://www.rickhansen.com/en-ca/home/interdependence2012/expo.aspx>

IAUD 2012 年 1 月の予定

- 10 日（火） 15 時～ 研究部会定例会（IAUD サロン）
- 11 日（水） 14 時～ 衣の UDPJ 定例会（IAUD サロン）
- 12 日（木） 15 時～ メディアの UDPJ 定例会（IAUD サロン）
- 16 日（月） 15 時～ 第 5 回運営企画会議（IAUD サロン）
- 19 日（木） 13 時半～実行委員会会議（IAUD サロン）
14 時半～住空間 PJ「西久保ノイエ」視察（東京都武蔵野市）
及び定例会（IAUD サロン）
- 20 日（金） 13 時～ 労働環境 PJ 定例会（住友スリーエム(株)相模原営業所）
13 時半～余暇の UDPJ
「国立障害者リハビリテーションセンター研究所」見学及び
「UD の支援技術・機器開発の流れ」講演会（埼玉県所沢市）
15 時～ 食の UDPJ 定例会（プロキューブ、東京都九段下）
- 26 日（木） 15 時～ 第 5 回理事会
（日産自動車(株)テクニカルセンター、神奈川県厚木市）
- 27 日（金） 15 時～ 標準化 WG「やさしい日本語」講演会（IAUD サロン）

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちらにリンクしてください↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1106/21-114818.php>

次号は 1 月下旬発行予定

特集（予定）：山本会長と岡本議長に聞く「2011 年の振り返りと 2012 年の抱負」他

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net